

令和 6 年度 公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館事業報告書

当年度の成果と展望

実施事業（総事業費 191,868 千円）

5 年ぶりの年間 10 万人超え、累計 350 万人達成

利用者は、前年までの回復基調を維持し、春先から順調に推移しました。R6 年 4 月から 12 月末までの利用者は、前年同期比 117.3%となる 79,139 人、入館料収入も同 106.9%の 10,312,200 円となるなど、にぎやかな館内はコロナ禍からの着実な回復を感じさせるものでした。

しかし、年明けからは、暖冬だった昨年とは一転して天候不順が続き、寒さの厳しい日が多くありました。鳥取市内の R7 年 1 月期の平均気温は 4.6℃（前年 5.7℃）、2 月期はさらに下がって 3.1℃（同 6.9℃）となり、また 30cm を超える積雪を記録するなどして、大幅に入館者数が減少しました。1 月・2 月の利用者は、それぞれ前年の 79.2%・71.7%、入館料収入も 67.6%・64.3%と前年同月を大きく下回り、春先からの好調を一時的に押し下げる要因となりました。

3 月に入ると気温の上昇とともに利用者も戻り始め、最終的な年間利用者は 101,945 人（前年度 93,264 人 9.3%増）、年間入館料収入は 13,294,100 円（同 13,609,950 円△2.3%）となり、年間の利用者は、コロナ禍以前の R 元年度以来、実に 5 年ぶりとなる 10 万人台を回復しました。また、3 月 8 日には開館 29 年目にして累計の入館者数 350 万人を達成し、神戸市から親子で訪れた 8 歳と 5 歳の姉妹に記念品を贈呈しました。

経営環境の変化と職員の処遇改善

本年度より、令和 10 年度を終期とする 5 年間の新たな指定管理期間がスタートしました。新たな指定管理期間の開始に先立ち、入札等により R6 年 4 月を始期とする清掃業務や各種設備の保守業務の契約を更新しました。施設管理系の委託業務は前回の入札から 5 年ぶりの委託料の見直しとなったため、物価や人件費の上昇を反映し、平均して 1 割超の値上がりとなりました。

その一方、収入面では、近年の初任給の引き上げや非正規雇用の処遇改善といった労働環境の社会的趨勢の変化や諸物価の上昇に対応するため、県市の指定管理委託料が当初

の協定額より 2 割程度引き上げられました。これを原資として、初任給の引き上げや、主に若年層を手厚くした給料表の改定を行っています。特に、受付の非常勤職員は基本給の 10.8%の引き上げや賞与相当額の支給率の改定により、年間人件費ベースで平均して一人当たり 23%増となる処遇改善を実施しました。

これらの要因に加え、光熱費の増加や諸物価の上昇により損益ベースの総事業費は前年度の 173,550 千円から 110.6%となる 191,869 千円まで増加しています。

新体制のもとでの企画刷新と多様なイベント展開

新たな指定管理期間が始まるのに合わせイベントの刷新と整理を図るため、全体を俯瞰して年間計画を立案、調整する企画会議を立ち上げました。同じ事業を繰り返すのではなく、意思と目的を持って新しいこと、面白いことを追求するという方針の下、従来になかった新しい試みが生まれ一定の成果がありました。

一例として、演劇×ゲーム「今夜、琵琶湖をひろげに」では、2 ステージ目の公演を夜間開館の時間帯に設定し、会場も 3F の展示室の一角で開催しました。オーディションで選ばれた 20～30 代が出演することもあるか、特に夜のステージは、一人あるいは友人同士連れ立って観劇する若い世代の姿が目立ちました。このほか 11 月 17 日の「将棋の日」には、記念の将棋イベントをいべんとほーるで行いました。日本将棋連盟鳥取県キッズ支部との将棋あそびや、プロ棋士による指導対局など、初めての将棋イベントでしたが初心者でも楽しめる一日となりました。いずれのイベントも普段の利用者とは異なった年代の来場が見られ、参加人数以上に意義のある内容でした。

また、鳥取市教育福祉振興会や鳥取市文化財団と 9 月の障がい者雇用支援月間に合わせた連携事業を共催しました。『鳥取市は一とふるアートギャラリー』に認定されている県東部 3 施設(アートスペースからふる・十人十色・鹿野第二かちみ園)の障がいのある方の作品を、わらべ館など市内 5 会場で展示しました。スタンプラリーもあわせて実施し、市街地に入流を生む初めての試みとしました。

このほか、令和 7 年度の開館 30 周年を前に、夢兎・ロビットの着ぐるみを新調しました。

1. 童謡唱歌に関する事業（公益目的事業 1 事業費 90,832 千円）

童謡・唱歌の普及啓発を図るため、次の 3 つを柱とした事業を行いました。

(1) 童謡唱歌体験事業

(2) 調査研究、資料収集事業

(3) 展示事業

童謡「いぬのおまわりさん」を手掛けた詩人・作曲家の展示を、鳥取県との関係にも触れながら実施したほか、「おもちゃのうた」「思い出の歌」をテーマに企画展を行いました。「思い出の歌」では **71** 作品にまつわるエピソードが全国各地から寄せられました。関連コンサートでは、遠方でわらべ館に来ることのできない方に向けての **YouTube** ライブ配信も演奏者の協力を得て初めて行いました。

また、県からの受託事業として「永井幸次生誕 **150** 周年記念事業」を実施しました。秋に約 **1** か月にわたり開催した特別展では、永井幸次を初めて知る人向けにストーリー仕立てでパネルを作成し、親しみを持ってもらえるよう工夫しました。会期中には鳥取まちなかガイドの会の協力でゆかりの地を歩く事業を実施したほか、永井幸次のひ孫による講演や大阪音楽大学出身の声楽家によるコンサートで永井幸次の功績を広く知ってもらう契機としました。

2. おもちゃに関する事業（公益目的事業2 事業費 91,220 千円）

おもちゃ文化の普及啓発を図るため、次の3つを柱とした事業を行いました。

- (1) おもちゃ文化体験事業
- (2) 調査研究、資料収集事業
- (3) 展示事業

壊れたおもちゃを修理するボランティア活動「おもちゃの病院」の創立 **15** 周年を記念し、「展示 ひらめき分解図鑑」しました。本展示では、「おもちゃドクター」と呼ばれるおもちゃ修理のボランティアの方々にご協力いただき、電動ぬいぐるみ、乗り物型のおもちゃ、楽器のおもちゃなど、様々なおもちゃの内部構造がわかるよう工夫を凝らした展示を行いました。このほか、フルート、クラリネット、リコーダーといった本物の楽器を半分にカットした状態での展示や、**X** 線を用いて撮影したおもちゃの内部の写真を展示して、来場者におもちゃや楽器の仕組みを知ってもらう機会としました。

また、当館が所蔵する精巧なからくりの「茶運び人形」の仕組みについて、作家による解説付きで実演するイベントや、江戸時代から続く和紙の姉様人形展や姉様づくりなど、大人も楽しめる企画を実施し、幅広い世代に向け、おもちゃ文化の諸相を伝えることに努めました。

3. 法人管理事業（管理事業 事業費 9,817 千円）

定時評議員会のほか、理事会を **3** 回開催しました。事業計画書や財務諸表等を **WEB** サイト上で公開し、公益法人として透明性のある法人運営に努めました。

定款を変更し、非常勤の理事及び監事との間に責任限定契約を締結しました。